

## 「IT産業振興の為のフリーディスカッション」

<日 時>：平成20年4月22日（火）18：30～21：30

<場 所>：クオリティ株式会社8階会議室

<参加者>：16名（企業関係者8名、県関係者8名）

（企業関係者）

浦聖治様（クオリティ（株）代表取締役）

上田富三様（アドソル日進（株）常務取締役）

木戸英夫様（アティック（株）代表取締役）

木村陽子様（総務省地方財政審議会委員）

小椋量友紀様（イーディコントライヴ（株）代表取締役社長）

瀬古茂様（富士通（株）サーバシステム事業本部事業企画統括部統括部長）

宮井均様（NECパーソナルプロダクツ（株）執行役員）

安田豊様（KDDI（株）コア技術統括本部長）

（県関係者）

企業立地課 伊藤課長、西川主査

情報政策課 富岡課長、山中副主査

産業振興課 東山主査

東京事務所 増谷所長、堀主任、垣本主査

<発言録>

「県側」：和歌山県衰退の原因は2つ。IT産業が弱いことと加工組立型産業への転換が遅れたこと。企業誘致も含めたIT産業振興について意見交換し、民間と行政の感覚の相違を解消できればと思います。鉄、化学等素材系産業が県GDPに占める割合は65～67%ぐらいで、産業構造は30年前と変わらない。紀北部は大阪経済が元気になればその恩恵を受ける。シャープの堺進出がその典型。その一方で、紀南をどうするか。客観的データに基づき地域としてどのような産業構造を目指していくかが見えない。そういった中で（立地促進法に基づく）紀南地域の活性化基本計画では、（農林水産業や観光等）地場産業のパートナーとなり得る企業を誘致してくる方向で、協議会での議論を進めているところです。「全員意見」：・大学生等の就職意識調査結果を見るとかなりの割合の人が和歌山に帰って仕事がしたいと考えている。北海道や四国を回っても地元で仕事をしたい人が多いことを実感した。それなのに日本の社会や企業は首都圏に人を集めようとしている。

・今のIT業界は、「きつい、厳しい、帰れない」の3Kと言われ、若い人達の意識は変わってきている。地元のIT企業を支援してあげることを考えてはどうかと県の人にも申し上げたが、（どのような支援が有効か）皆さんともう少し分析できれば良いと思います。

・医療・教育環境が整っているかどうかは地域活性化にとって重要なポイント。紀南は一次産品を世界の一流レベルに上げるとか、観光であるとか、あまり選択肢は多くない。この2つの産業の底上げが一番効果がある。

・シリコンバレーモデルの場合、大学、高等教育機関の役割は非常に大きく、和歌山の大学のポテンシャルをもっと活かしていく必要があるとおもうが、企業は大学に対してどれくらい期待しているのか。

・企業側から見れば、どの大学も同じ。中国や海外の大学はいかに企業を呼び込むかに必死で熱気が違う。

・大学発ベンチャーをやるならやる気のある若い先生を引っ張ってこないとうまく行かな

い。当社ではパソコンの生産の95%以上を中国で行っている。和歌山にハードの工場誘致は難しいが、ソフト開発なら可能性があるのでないか。

・企業誘致の目的が雇用の創出にあるなら、ソフトウェア開発に目を向けるべき。自動車やデジタル家電等の半導体に組み込まれるソフトは何百人月、何千人月という作業を要しており、まさに忍苦作業(?)。そういう仕事を和歌山に持ってくるスキームを考えなければならない。中国やベトナムのオフショアではコミュニケーションギャップがあり、単価は安くても品質問題などで結果的に国内と同じコスト掛かることもある。家電や自動車等、機械を制御するために組み込まれるソフト開発は地方に行っていて、銀行等基幹系システムの開発は東京に集中している。基幹系システムの仕事も、設計やデザインの仕事は東京だが、開発は地方や和歌山でも可能。

・企業は進出の判断基準として、インフラやコスト比較以外にも、県民性や土地柄なども考慮している。海外オフショアの場合のカントリーリスクに比べれば小さいと思う。

・IT業界は最近メンタル面で問題を抱えている人が多くなってきている。仕事や都会に疲れた人たちをケアする仕組み作りが白浜や熊野で癒しが出来ないか。自然豊で温泉があって通信ネットワークがあれば仕事ができるわけだから。

・地元のIT事業者に仕事を出せるスキームを考えた方が良い。地元業者の設備投資を応援してあげるとか、ネットワークを作って東京の仕事を請けられるようにしてあげるとか、その方が現実感がある。

・地元で現在活躍中のソフトハウスの種を育て支援するという方向で考えていくべき。

・和歌山にもベンチャー企業支援施設があるが、入居率が低いどうしたら地元の企業家を発掘できるのか。単に場所貸しではなく、相談できる状況というのが必要では。

・ここでヒアリングするより、和歌山のソフトハウスを集めて何が必要なのかヒアリングする方が良い。

・フィンランドの「ノキア」の成功例は和歌山でもIT産業の可能性を感じさせる。

・ITを活用するという視点で言えば、やれることはいっぱいある。エコロジーや環境問題が注目される現代では、南方熊楠や熊野古道など、和歌山県というのは差別化できるイメージを持っていると思う。

・今は全国の都道府県が競争対象の状況で、企業が「和歌山県」を選ぶのに何が必要なのか。「和歌山県ならでは」というものを考える必要がある。

・IT産業の振興が地方の活性化につながると信じている。日本のソフトウェアの輸入超過が3,000億円。これをゼロにするだけでも日本は大きく変わる。もちろん難しいことであるがやる価値はあるし、本気でやればフィンランドの「ノキア」も夢ではない。

・箱物を造って企業を呼ぼうとしても、中国にはかなわないだろう。例えば白浜なら、温泉や保養所など今あるものを活用したソフト面の支援を充実させるべき。地元で頑張っているIT企業を応援するために我々ができることはあるはずで、時間はかかるかも知れないがそのための事を考えていく必要があるだろう。

以上